



学 校 だ よ り

令和5年12月

— 第9号 —

「子供たちは奇跡の存在」家族で楽しい冬休みを 谷 美 貴

先日、4年生は、助産師の野澤昌子さんを講師にお迎えして「いのちの授業」を受け、小さな命が、280日で赤ちゃんとして生まれてくることを、分かりやすく教えていただきました。子供たちは、折り紙に開けられた小さな小さな穴が命の始まりだということやそれから一か月もかかりやっと一粒の米ほどの大きさになることなどを知り、いのちの始まりの小ささを実感するとともにその神秘的力に驚いていました。最後に野澤さんから「みんなが奇跡の存在です」と話していただき、自分の大切な命、大事に育てられた命に気づき、様々なことを考えたり、感じたりしたようです。授業後、子供たちの感想には「いのちが生まれたのは、7つの海の中で一円玉を見付けるくらい奇跡的なことだと知り、自分が生まれたのもとてもすごいんだと思いました」「いのちを産むのは命がけで、それでも産む覚悟があるお母さんはすごいと思いました。お母さん産んでくれてありがとう」などと感想を書いていました。その感想を読んだ4年生保護者の皆様の感想には「生まれてきてくれてありがとう」との言葉がたくさん書かれていました。本当に子供たちは奇跡の存在であり、かけがえのない存在だと改めて感じさせられました。



さて「奇跡の存在」のお子様と冬休みは家族で存分に楽しんで、すてきな思い出をつくっていただけたらと思います。今年一年、地域の皆様、保護者の皆様にいろいろな場面でご協力いただき、大変ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。よいお年をお迎えください。

本好きな子供を目指して

川 上 さ と み (図書担当)



本校では、「本好きで心豊かな子供の育成」を目指して様々な取り組みが行われています。

1つ目は、真珠の会の方々による読み聞かせです。子供たちは毎週水曜日の「読み聞かせタイム」を楽しみにしており、お話の世界に浸り、目を輝かせて聞いています。2つ目は、全校一斉の読書タイムです。掃除の後のわずか10分間ですが、没頭して本を読んでいる姿を目にします。さらに図書室では、貸出冊数に応じて、金・銀・銅・スター等のメダルを設定しています。そのメダルを励みに読書意欲を高めている子もあり、4月からの貸出冊数が100冊（金メダル）に到達した子供が続々増えてきました。中には、200冊読破した子もいます。図書委員会では「もっと本となかよくなろう」という集会を開きました。大型絵本の読み聞かせ、本の題名を当てるクイズ、指示された本を探してくるゲームなどをしました。各コーナーを回った子供たちからは「楽しかった」「もっと聞きたかった」という声が聞かれました。これからも本好きな子供たちが増える取組をしていきたいと思っています。

近頃、図書館や書店では、季節に応じて、子供たちが思わず手に取ってみたいくなるような本が展示されたり、イベントが開催されたりしています。親子で足を運んでみてはいかがでしょうか。お子さんが興味をもって手に取った本が「本好きの入口」になるかもしれません。「好き」のためには、「子供たちが自ら選ぶこと」が大切です。また、子供たちにとっては、身近な大人が本を呼んでいる姿にも刺激を受けるようです。雨や雪で戸外で遊べない日々が続くこの時期こそ「読書のチャンス」と考えて、親子で本に親しんでいただければと思っています。



学校をめぐる状況③「立山北部小もコミュニティ・スクールになります！」

お伝えしてきたように、子供を取り巻く社会や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、今後は学校と地域の連携・協働がますます重要になります。そこで、立山町の小・中学校も、令和6年度春から、国の新たな制度である「コミュニティ・スクール」となります。地域の子供たちをどのような姿に育てたいかという目標と、そのために何をしていくのかという方法を地域全体で共有して、末永く一緒に子供たちを育んでいくために「公的な仕組み」が導入されるのです。概要は以下の図をご覧ください。

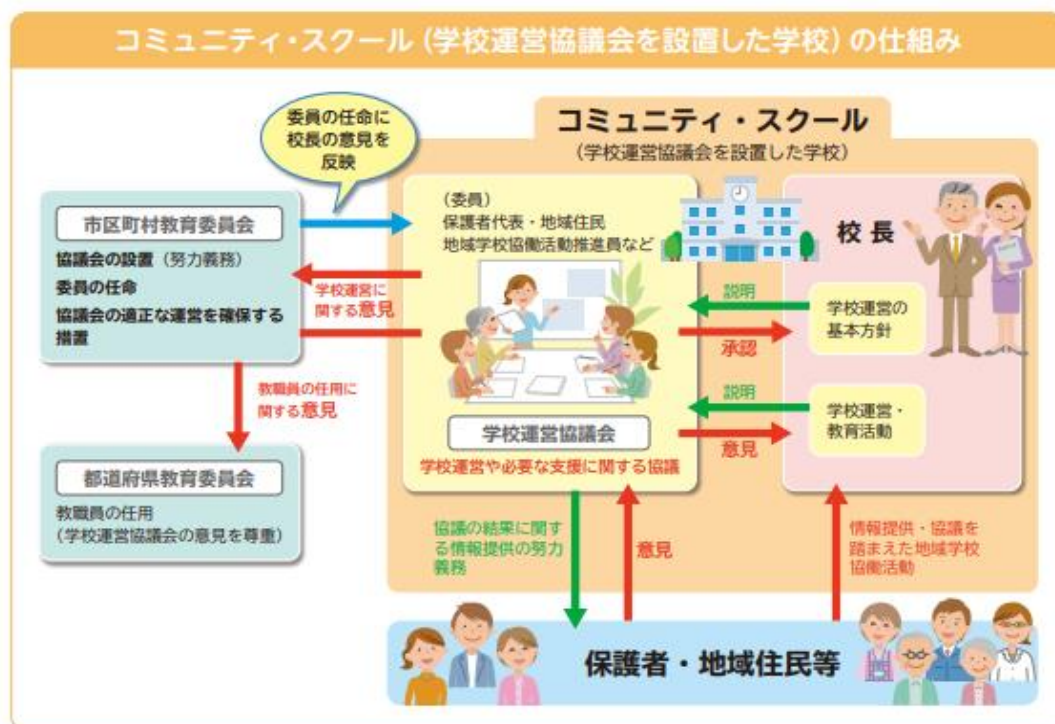
コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクール ＝ 学校運営協議会を設置した学校

学校運営協議会とは・・・

法律に基づき教育委員会により任命された委員が、一定の権限を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関のことです。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）の仕組み



より詳しい説明
は、こちらから



既にコミュニティ・スクールとなって活動している市町村や学校では、以下のような変化があったそうです。（文部科学省作成のパンフレットより）

- 住民 * 近所に心配な子供がいてもあまり声をかけられなかったが、直接いろいろな話をする機会が増えた。
- * 子供のマナーについて気になることがあれば、学校と一緒に対策をするようになった。
- 教員 * 自分のこれまでの経験を生かして、学校や子供のサポートをしやすくなった。
- * 地域の方と一緒に行う活動が単発にならず、学びをより豊かに広げられるようになった。
- * 地域の方が学校に入ってくださり、教職員が子供と向き合う時間が増えた。

子供の成長
笑顔

この他にも、合同で避難訓練を行うなど、防災や防犯面でも効果的に取り組めることがあります。

現在、立山町教育課 生涯学習係で準備が進められており、説明会も実施されていくようです。皆様と一緒に、無理なく、持続可能な運用となるよう、数年かけて整えていきたいと考えております。まずは、次年度の学校運営の基本方針と教育活動を、新たに学校運営協議会の委員となられる皆様に承認していただけるように、教職員全員で意見を出し合って組み上げているところです。

立山北部小学校ホームページも随時更新しています。
ぜひ、ご覧ください。

<https://tateyamahokubu-e.edumap.jp>

